

佐潟再生事業について

【概要】

佐潟周辺自然環境保全計画に基づき、佐潟の水質改善を図るため、人の手を加え佐潟の再生を目指す。令和元年度は水門前の泥の堆積状況調査及び排出試験を行い、調査結果をもとに意見交換会を開催した。

1 佐潟水門前の底質調査とポンプを用いた泥の排出試験

佐潟に堆積した泥を効率的に排出するため、水門前に堆積した泥の調査及びポンプを用いた排出試験を行った。

(1) 実施日：令和元年4月10日、16日、9月15日、10月9日（計4回実施）

(2) 調査内容

- ①水門前の湖底の泥の堆積状況を調査
- ②ポンプを用いた泥の排出状況を調査

(3) 調査結果

- ①水門付近には22～183 cmの厚さの泥が堆積していることを確認
- ②水門前に砂礫質の固い堆積物があり、泥の排出を阻害していることが判明
(①、②に関しては第29回佐潟協議会で報告済み：下記の図1参照)
- ③ポンプを用いた水圧では、砂礫質の堆積物の除去は難しかった。
- ④砂礫質の堆積物を除去することにより、水門付近の泥を水門のドロばきを用いて排出できる可能性が示唆された。

2 佐潟の水質を考える意見交換会の開催

佐潟水門前の調査結果を地域関係者等と共有し、次年度以降の活動方針の参考とするために意見交換を行った。

(1) 開催日時：令和2年2月29日（土）午後1時30分～午後3時

(2) 開催場所：西区赤塚公会堂

(3) 参加人数：26人

(4) 開催結果

地域の農業関係者、漁協関係者をはじめ、多くの方から参加いただき、積極的な意見交換を行った。主な意見としては以下の通り。

- ・アオコを専門的に研究している研究機関に調査を依頼し、科学的根拠も明らかにすべき。
- ・湧水を増やすために潟の周りに堀を増やすべき。
- ・かつては5月中旬まで水をできるだけためて一気に水を落としていた。
- ・魚類が産卵してみよける（ふ化）までは、水を落としてはいけない。
- ・水位管理を行うには、関係する団体と連携しながら実施する必要がある。

意見を踏まえ、魚類のふ化が終わる5月末頃に佐潟の水位を落とし、ハスやオニバスといった水生植物の発芽・発育を促すことを検討することとした。

また、意見交換会は今後も継続的に開催することとした。

3 令和2年度事業予定

令和元年度に実施した調査結果を踏まえ、水門前に堆積しているドロの排出に向けた事業を実施する。

(1) 佐潟水門前の砂礫質堆積物撤去

佐潟水門前の調査結果から明らかとなった、水門前にある砂礫質の堆積物を重機などで撤去する。撤去の方法に関しては地域関係者等と協議の上実施する。

①撤去の方法を具体的に検討し、第31回佐潟協議会承認後に事業を実施

②撤去の際には、自然環境への負荷をできるだけ抑えて実施する。

(2) 佐潟水門のドロばき活用

佐潟水門前にある砂礫質の堆積物を撤去した後に、令和元年度に実施した泥の排出試験を改めて実施し、水門前の泥の排出状況を確認する。

また、地域関係者と連携しながら積極的にドロばきを開閉することを検討する。

(3) 佐潟の水位管理の再検討

意見交換会の開催結果を踏まえて、地域関係者と継続的に協議しながら水位管理を再検討する。協議の内容や実施状況は第31回佐潟協議会で報告する。